

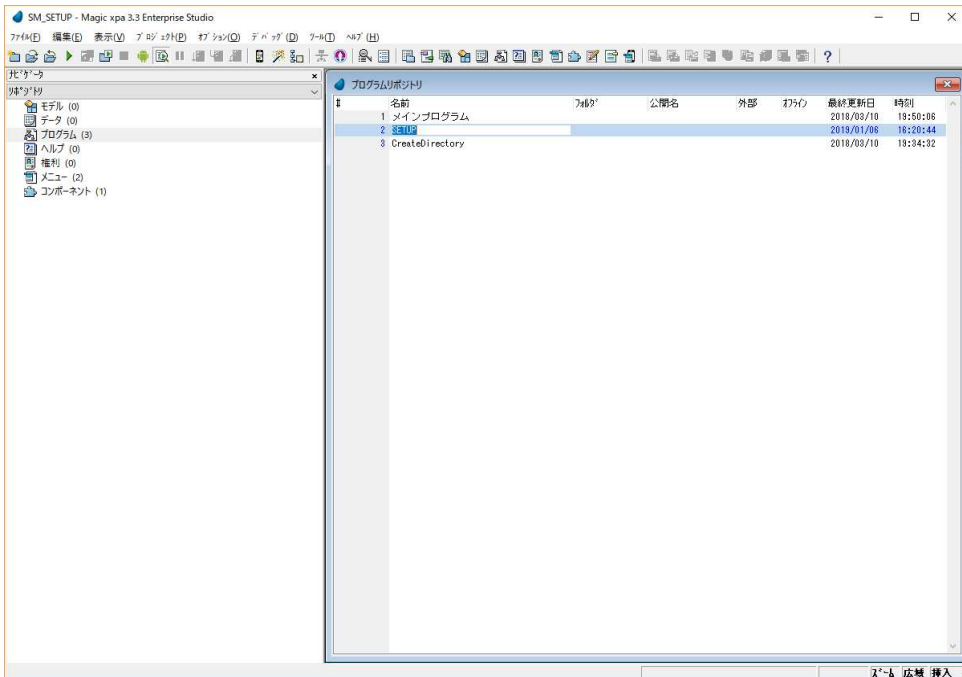
1.アーカイブの解凍

ファイル「SMSYS_X###.zip」を任意のフォルダに展開します。
展開後のフォルダイメージは下記の通り

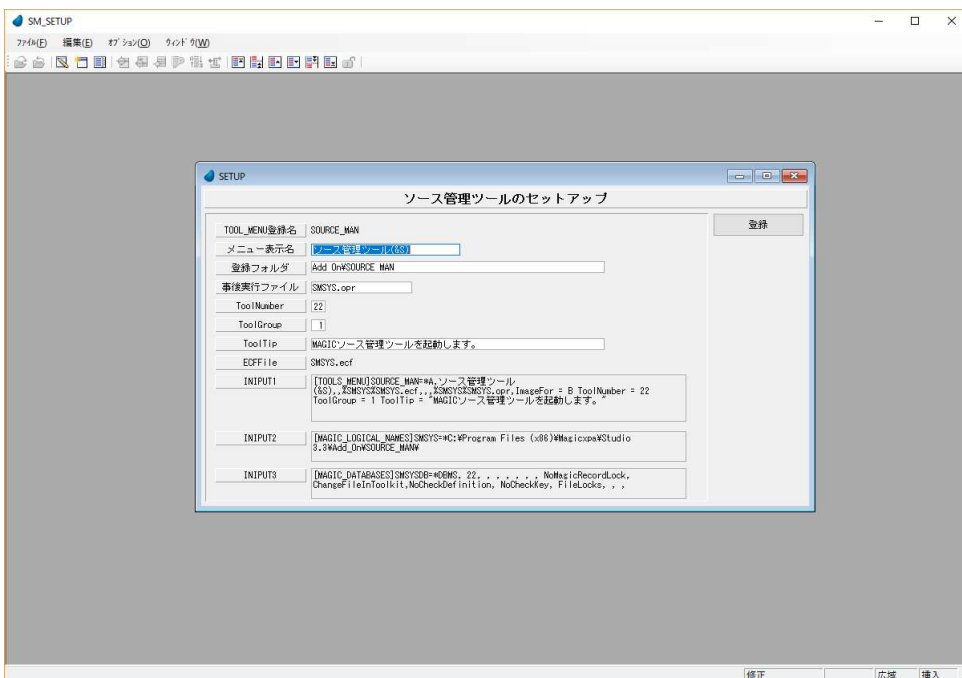
SMSYS_X###	
├ README.txt	「はじめに読む」テキストファイル
├ SMSYS - セットアップ方法.xlsx	当ドキュメント
├ DEVELOP	開発用資料
└ SM_SETUP	インストール用プロジェクト「SM_SETUP」フォルダ
├ SM_SETUP.edp	「SM_SETUP」プロジェクトファイル
├ Source	「SM_SETUP」ソースフォルダ
├ Exports	「SM_SETUP」Exportsフォルダ(空)
├ Data	SMSYSインストールデータ
└ DLL	SMSYSインストールデータ(DLLファイル)

2.開発版でのインストール

- ① Magic xpa 3.x EnterpriseStudio (Version は3.2以降) でプロジェクト「SM_SETUP」を開きます。



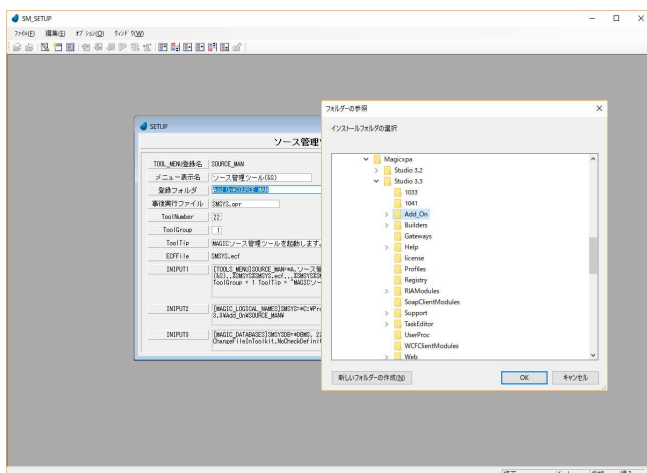
- ② プログラムリポジトリの「SETUP」を実行します。



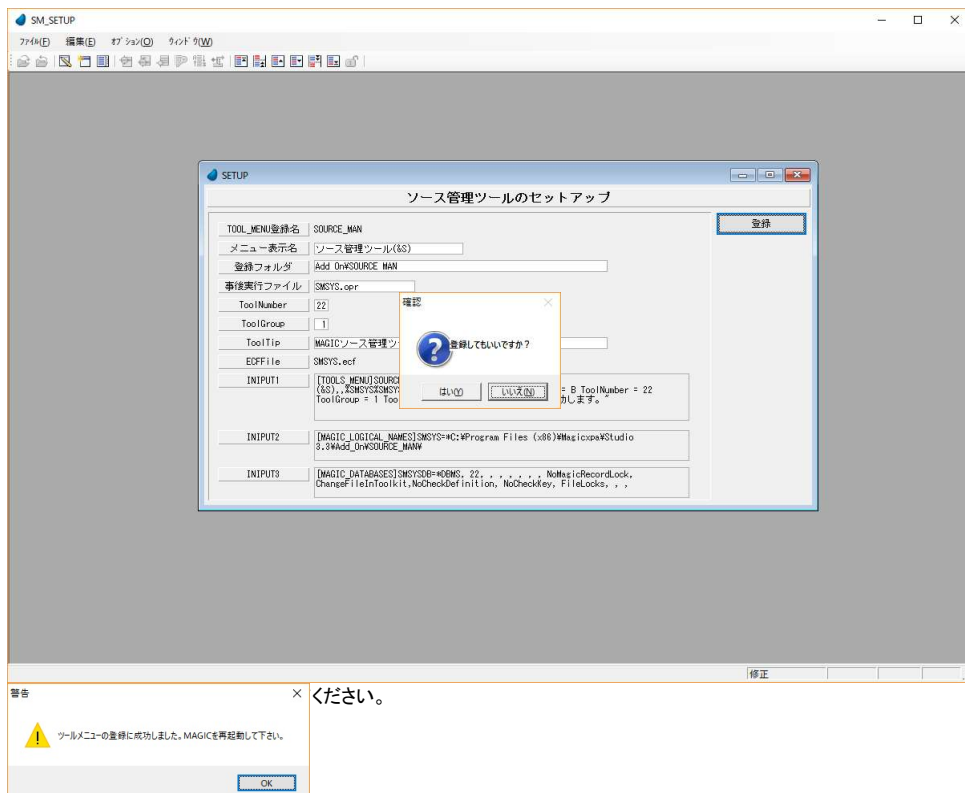
メニュー表示名を変更することが可能です。

登録フォルダを選択します。

初期値はシステムフォルダの下に「Add_On\SOURCE_MAN」ですが、「F5:ズーム」で任意のフォルダを選択することが可能です。

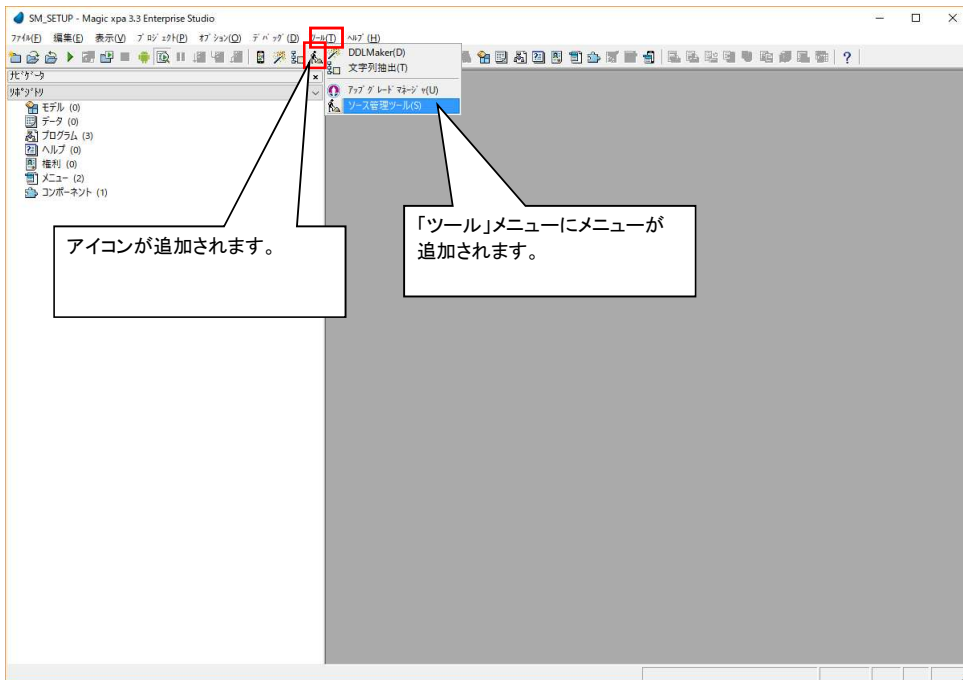


③「登録」ボタンを押してインストールを実行します。

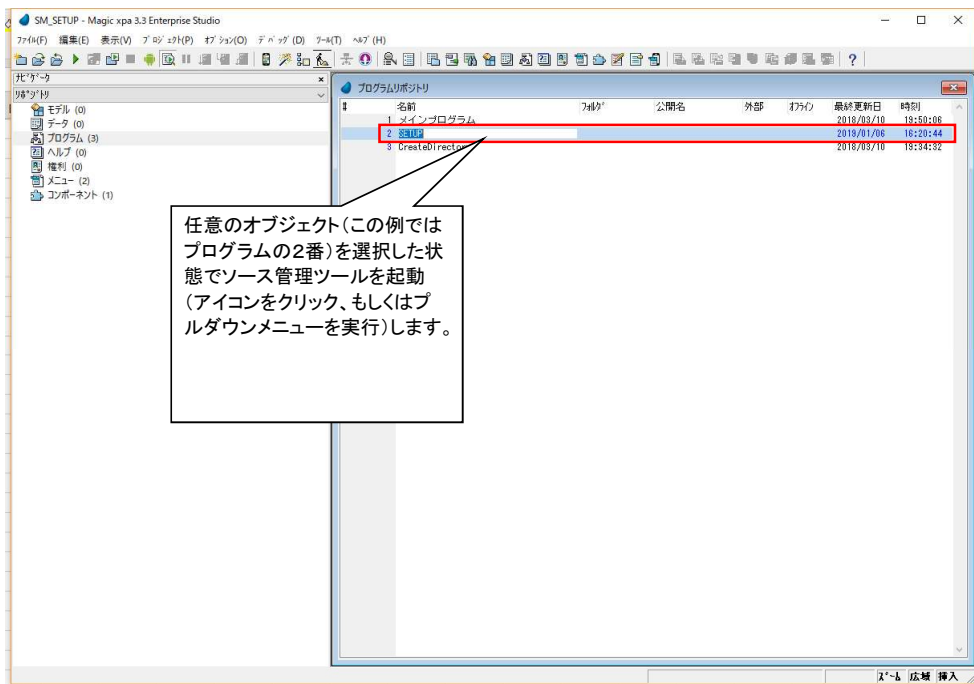


④ 動作を確認

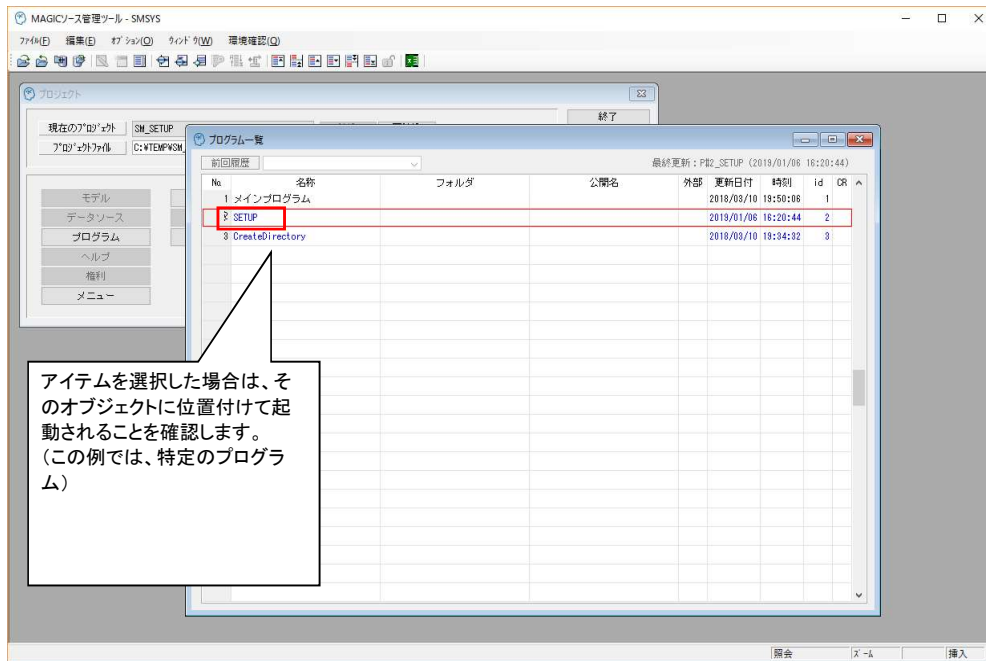
イ) 再起動を行った後、任意のプロジェクトを開きます。



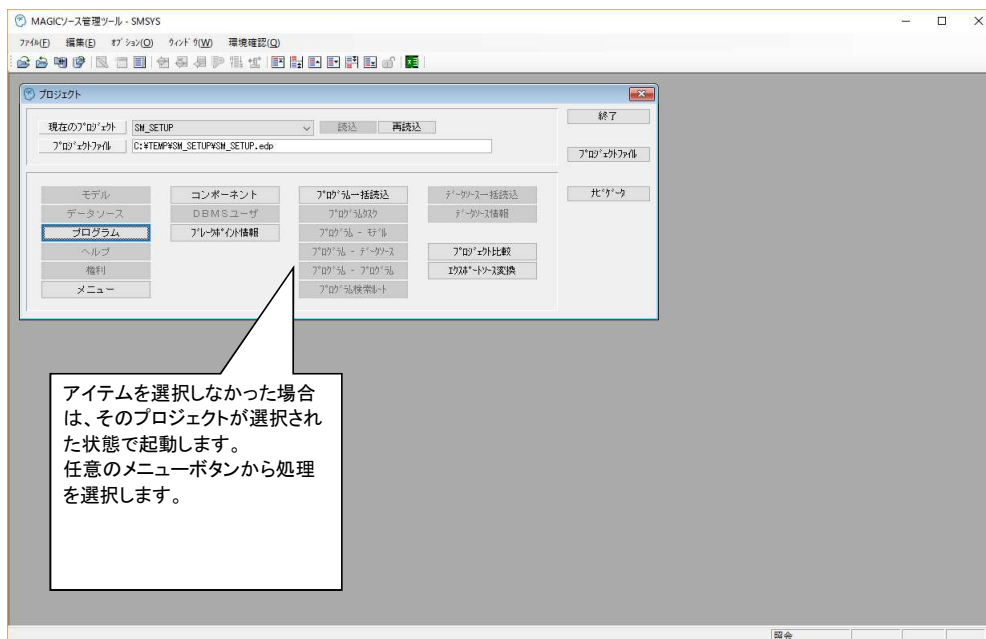
ロ) 任意のオブジェクトを選択し、ソース管理ツールを起動します。



アイテムを指定した場合



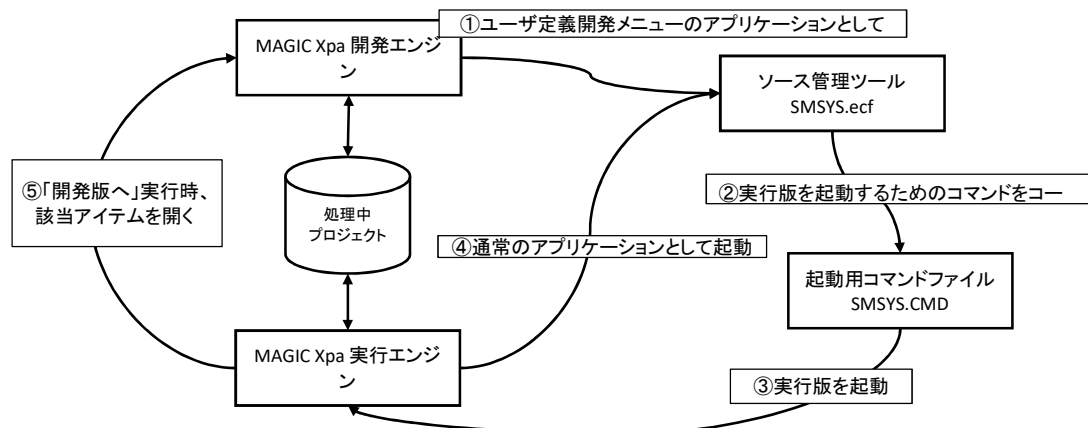
アイテムを指定しなかった場合



⑤ 処理の概要とトラブル時の対処

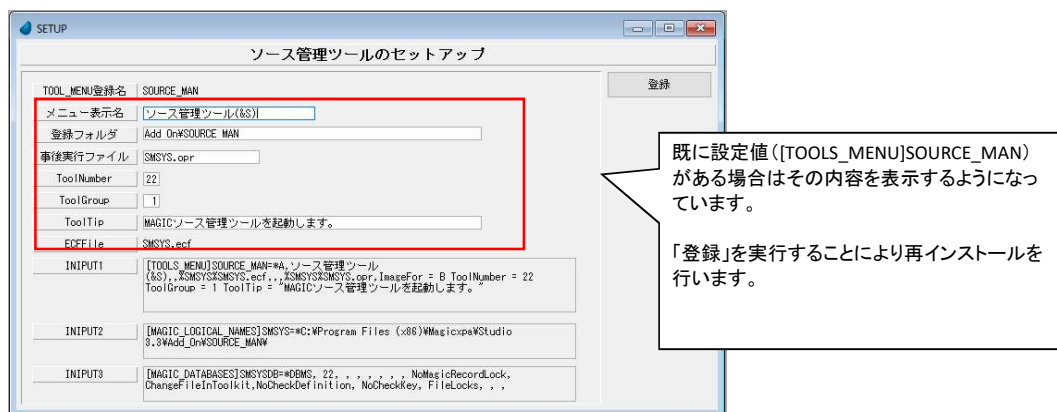
システムの概要を下图に示します。

ユーザ定義開発メニューの機能を利用した実行版の起動から、処理中のプロジェクトにアクセスする仕組みになっています。



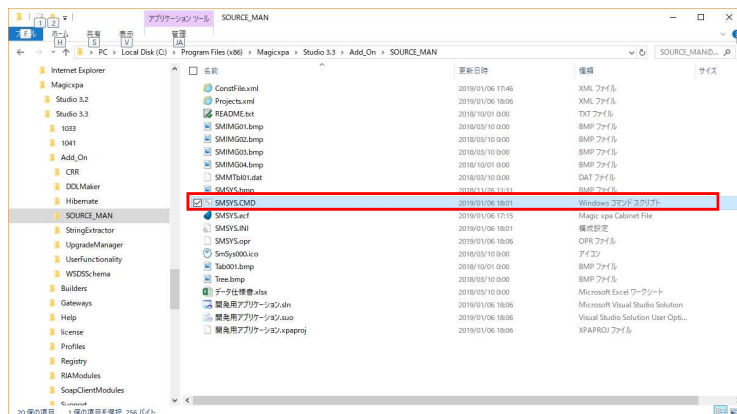
もし、環境の変更等により正しく動作しなくなった場合は、下記のように対処してみてください。

a) インストール用プロジェクト「SM.SETUP」を再実行する



b) SMSYS.CMDを確認

インストール先フォルダの「SMSYS.CMD」を探します。



メモ帳等で開き、パス等が合っているかどうか確認します。
単独で実行してみて、実行版が起動するかどうかを確認します。

```
@echo off
set ProjectDir=%*
start /d "C:\Program Files (x86)\Magiccpa\Studio 3.3" MgcpaRuntime.exe /ini="C:\Program Files (x86)\Magiccpa\Studio 3.3\MAGIC.INI"
@"C:\Program Files (x86)\Magiccpa\Studio 3.3\Add_On\SOURCE_MAN\SMSYS.INI" /PROJ=%ProjectDir%
```

3.手操作によるインストール ※開発版でのインストールが済んでいる場合は読み飛ばして頂いて構いません

SMSYS.X###	
├ README.txt	「はじめに読む」テキストファイル
├ SMSYS - セットアップ方法.xlsx	当ドキュメント
├ DEVELOP	開発用資料
└ SM_SETUP	インストール用プロジェクト「SM_SETUP」フォルダ
├ SM_SETUP.edp	「SM_SETUP」プロジェクトファイル
├ Source	「SM_SETUP」ソースフォルダ
├ Exports	「SM_SETUP」Exportsフォルダ(空)
└ Data	SMSYSインストールデータ
└ DLL	SMSYSインストールデータ(DLLファイル)

- ①「Data」フォルダ内のファイルを任意の場所にコピーします。

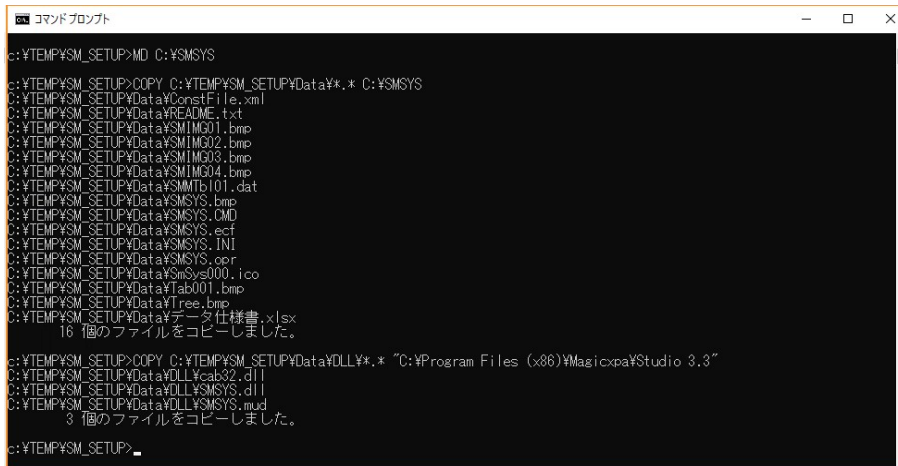
実行するコマンド例

```
MD C:\SMSYS
COPY C:\TEMP\SM_SETUP\Data\*. * C:\SMSYS
```

- ②「DLL」フォルダ内のファイルをMagic xpaの開発版のフォルダにコピーします。

実行するコマンド例

```
COPY C:\TEMP\SM_SETUP\Data\DLL\*. * "C:\Program Files (x86)\Magicxpa\Studio 3.3"
```



- ③「SMSYS.CMD」の編集

- ①でコピーしたフォルダ内にある SMSYS.CMD をメモ帳等で開き編集します。

```
@echo off
set ProjectDir=%*
start /d "C:\Program Files (x86)\Magicxpa\Studio 3.3" MgxpaRuntime.exe /ini="C:\Program Files (x86)\Magicxpa\Studio 3.3\MAGIC.INI" @ "C:\Program Files (x86)\Magicxpa\Studio 3.3\Add_On\SOURCE_MAN\SMSYS.INI" /PROJ=%ProjectDir%
```

- A 開発版のフォルダ(パス名を②で指定したフォルダに変更)
B 使用するMAGIC.INI
C 開始するプロジェクトを記述したファイル(パス名を①で指定したフォルダに変更)

実行してみてアプリケーションが起動するかどうかを確認します。

- ④ MAGIC.INIの編集

開発版で使用しているMAGIC.INIを編集します。

- 1)「TOOLS_MENU」セクションに下記の記述を追加します。

```
SOURCE_MAN = A,ソース管理ツール(&S),,%SMSYS%\SMSYS.ecf,,,%SMSYS%\SMSYS.opr,lm+
ageFor = B ToolNumber = 22 ToolGroup = 1 ToolTip = "MAGIC'ソース管理ツールを+
起動します。"
```

- 2)「MAGIC_LOGICAL_NAMES」セクションに下記の記述を追加します。

```
SMSYS = C:\SMSYS\
```

赤字部分は①で決定したフォルダ名に変更(末尾に「¥」を付けてください)

- 3)「MAGIC_DATABASES」セクションに下記の記述を追加します。

```
SMSYSDB = DBMS, 22, , , , , NoMagicRecordLock, ChangeFileInToolkit, NoCh+
eckDefinition, NoCheckKey, FileLocks, , , NoCheckExist, 0, , NoAS400SrvrSor+
t,
```

- ⑤ 動作を確認

2. ④を参照してください。